

敏馬の浦に過る時に作る歌一首 并せて短歌

一〇六五番

八十^{やちほこ}棹^の神^{かみ}の御代^{みよ}より 百舟^{ももふね}の 泊^はつる泊^とまり
と 八島^{やしまくに}国^{ももふなびと} 百舟^{ももふなびと}人の 定^{さだ}めてし 敏馬^{みぬめ}の浦^{うら}は
朝風^{あさかぜ}に 浦波^{うらなみさわ}騒^{さわ}ぎ 夕波^{ゆふなみ}に 玉藻^{たまも}は来^き寄^よる
白砂^{しらまなこ} 清^{きよ}き浜^{はま}辺^へは 行^ゆき帰^{かへ}り 見^みれども飽^あかず
うべしこそ 見^みる人^{ひと}ごとに 語^{かた}り継^つぎ 偲^{しの}ひけら
しき 百代^{ももよ}経^へて 偲^{しの}はえ行^ゆかむ 清^{きよ}き白^{しら}浜^{なみ}